

第 62 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：2019年5月31日（金）16時30分～18時00分

会 場：東北大学災害科学国際研究所棟2階 演習室B（仙台市青葉区荒巻字青葉468-1）

テーマ：新任教員が携わる災害科学研究

1. 16:30-17:00（発表20分）

タイトル：**地震・津波リスク定量評価の実務と課題認識**

話題提供者：**宮本 龍**（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）

発表要旨

災害リスク評価においては、評価過程とその結果を伝える際、伝える相手の背景、評価目的、前提条件、情報の粒度・精度、評価の不確実性等を十分に鑑みたりスクコミュニケーションを採ることが重要となる。

本報告では、企業を対象とした災害リスク定量評価の技術開発と評価実務に携わってきた発表者が、開発・評価実務の実際と、その課題としての評価過程・結果のリスクコミュニケーション例を報告する。

2. 17:00-17:30（発表20分）

タイトル：**震災伝承をめぐる連携組織の現状と未来**

話題提供者：**武田 真一**（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）

発表要旨

震災の記憶と記録をどう引継ぎ、教訓に基づく防災啓発を未来に向けて深化、継続させていくか。東北地方整備局が遺構などのネットワーク化に乗り出し、語り部団体などが参加する草の根の連携体「311 メモリアルネットワーク」も活動を本格化する中、伝承の主体になるべき県や自治体の動きは鈍いままだ。震災伝承をめぐる産学官民連携は今後どう集約されていくのか。公的拠点組織の設立をめぐる現状と課題を報告する。

3. 17:30-18:00（発表20分）

タイトル：**大規模自然災害と歴史文化資料の保全・継承—過去の記憶を、未来へ伝える—**

話題提供者：**川内 淳史**（人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野）

発表要旨

大規模自然災害は、私たちの社会が過去より引き継いできた歴史文化資料を滅失させる大きなリスクである一方、少子高齢化や都市一極集中が進む現代社会では、日常的にも歴史文化資料は散逸のリスクに曝されている。こうした状況を受け日本各地で歴史文化資料の保全のための「資料ネット」が組織されているが、東日本大震災以降は相互連携が進められている。現在、東北大・神戸大・人間文化研究機構において進められている「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」を含め、災害を前提とした歴史文化資料の保全・継承の動きについて報告する。

司会・進行：**今村 文彦**（災害リスク研究部門 津波工学研究分野）